

第9章. 目標値の設定

- 立地適正化計画の進捗状況や妥当性を継続的に評価する際の尺度として、第3章で設定したまちづくりの方針のうち、立地適正化計画で設定する誘導区域に直接関連する下記の方針に対応する評価指標を設定します。
- 指標の設定にあたっては、第3期中心市街地活性化基本計画（平成28年12月～33年度）、福井鉄道交通圏地域公共交通網形成計画（平成27年度～29年度）での評価指標を参考とします。

	評価指標1	評価指標2	評価指標3
対応するまちづくりの方針	多様かつ高次な都市機能を提供する中心拠点の形成	生活の利便性を高める持続可能な公共交通ネットワークの維持、サービス水準の向上	将来人口に見合った市街地の規模、市民による居住地選択の誘導
評価指標の考え方	日常生活の圏域を越えた、市全域、全市民を対象とする「高次都市機能」が集積する中心市街地の魅力や拠点性を高めることにより、持続可能でコンパクトなまちをつくることができます。	主に拠点間を連絡する基幹的な公共交通軸に位置づけられる路線を中心として、公共交通の利用者数を維持することにより、公共交通ネットワークの維持、サービス水準の向上が可能となります。	安心して住むことができる居住誘導区域内の人口密度を維持することにより、既存の日常的なサービス機能及び地域コミュニティの維持が可能となります。
評価指標	中心市街地での施策による移住者数（人/年）	福井鉄道福武線の市内駅の利用者数	市民バスの利用者数
基準値（基準年度）	64人/年 （平成27年度）	303,325人/年 （平成27年度）	92,151人/年 （平成27年度）
目標値（目標年度）	66.7人/年 （平成33年度）	315,600人/年 （平成33年度）	95,900人/年 （平成33年度）
基準値、目標値の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 第3期中心市街地活性化基本計画では、「平成28年度から33年度までの6年間で中心市街地での施策による移住者数400人増（66.7人/年）」を目標値としています。 本計画では、平成27年度の最新値を基準値とし、第3期中心市街地活性化基本計画での目標値を評価の目安として設定します。 	<ul style="list-style-type: none"> 福井鉄道交通圏地域公共交通網形成計画では、「公共交通の利用者数の2%増（平成27年～平成30年までの3年間）」を目標値として設定しています。 本計画では、平成27年度の最新値を基準値とし、福井鉄道交通圏地域公共交通網形成計画での目標値（3年間で2%増）から、伸び率を0.66%/年（2%÷3年）と設定します。 <p>福武線の市内駅の利用者数 303,325人×1.0066⁶=315,579人</p> <p>市民バスの利用者数 92,151人×1.0066⁶=95,874人</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「5-6. 居住誘導区域の検証」に示した通り、今回設定する居住誘導区域で、平成52年度における現在の用途地域に配分される人口を収容すると仮定した場合の人口密度は24.0人/haと推計され、基準値を下回ります。 一方、越前市人口ビジョンでは、平成52年の人口を71,989人と設定しており、本計画策定の前提とした人口問題研究所による推計人口(66,651人)とは、約5,000人の差がありますが、現在の市街地環境を維持するためには、越前市人口ビジョンに掲げる目標人口程度の確保を目指すべきであり、評価の目安としてこれから算出される人口密度（24.0人/ha × (71,989人/66,651人) = 25.9人/ha）を目標値として設定します。 公共交通の利用により車がなくても快適な暮らしが可能なエリア、車利用で快適な暮らしが可能なエリア等、居住誘導区域内での役割分担により、市民による居住地選択の緩やかな誘導を図ります。